

「高知型地域共生社会」について

- (1) 「高知型地域共生社会」の構築に取り組む背景
- (2) 「高知型地域共生社会」とは
～「たて糸」と「よこ糸」で織りなす地域共生社会～
- (3) 市町村の多機関協働による包括的な支援体制の整備
～「たて糸」の具体的な支援事例～
- (4) 「つながり」を実感できる地域づくり
～「よこ糸」の具体的な取り組み～

(1) 高知型地域共生社会の構築に取り組む背景

地域の支え合いの力の弱まり



高知県では、

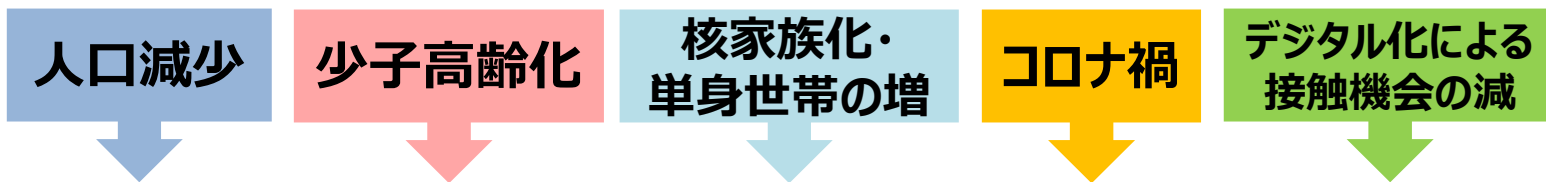
- ⚠️ 全国に **15年先行**し、平成2年から人口が自然減（▲502人）に転じる
- ⚠️ 全国に **10年先行**し、平成17年に4人に1人以上が65歳以上になる
- ⚠️ 特に **中山間地域では過疎・高齢化が進み、さらに集落の小規模化**などにより、**住民主体の「地域福祉活動」が十分に機能しない**ことに危機感

(S35⇒R2人口減少率) 高知県全体▲19.1%、中山間地域▲**52.2%**

(H27⇒R2世帯別集落数) 20～300世帯の集落▲**60世帯**、19世帯以下の集落+**51集落**)

さらに・・・

生活スタイルの変化などにより、地域のつながりや隣近所の助け合いなどの弱まり



「県民世論調査」(高知県)

地域のつながりが弱まったと答えた人

43.4%(H28) ⇒ 53.9%(R3)

地域の「力」が弱まってきた・・・

「集落実態調査」(高知県)

10年前と比較して地域活動の参加者が減ったと答えた人 68.6%(R3)



公的なサービスだけでは、十分に対応できない課題の増加

8050問題

80代の親が50代のひきこもりの子の生活を支える世帯



支え合いの力の弱まりで、複雑な課題が社会問題になった...

ヤングケアラー

本来大人が担うとされている家事や介護などを行っている子ども



ダブルケア

子育てと介護を同時に担うこと



孤独・孤立

ひきこもり

独居・核家族

コロナ禍

高知県では、地域の支え合いの力の再構築のため

平成21年から「高知型福祉」を推進！

高知型福祉 の理念

子どもから高齢者、障害者など年齢や属性を問わず、すべての県民が住み慣れた地域で安心して、ともに支え合いながら生き生きと暮らすことができる地域づくり



柱 1

高知型福祉の拠点として「あったかふれあいセンター」を整備

●拠点数 H21：28拠点 → R4：56拠点290サテライト

柱 2

地域福祉を担う人材の育成

●コミュニティソーシャルワーカー数 H24：34人 → R4：70人

●あったかふれあいセンター職員数 H21：135人 → R4：261人



柱 3

市町村「地域福祉計画」の策定の推進

●計画策定市町村 H21：6市町 → R4：全市町村



国では、地域共生社会の実現に向けて・・・

平成28年6月2日閣議決定

ニッポン一億総活躍プラン

「支え手側」と「受け手側」に分かれるのではなく、誰もが役割を持ち、支え合いながら、活躍できる、地域共生社会の実現

平成30年4月施行

社会福祉法の改正



① 「我が事・丸ごと」の地域福祉推進の理念を規定

地域福祉推進の理念として、支援を必要とする住民（世帯）が抱える多様で複雑な「地域生活課題」について、①住民や福祉関係者による把握 及び ②関係機関との連携による解決 が図られることを目指す

つまり…

住民一人ひとりが主役となって、
お互いに支え合う地域社会へ



② この理念を実現するため、市町村は包括的な支援体制づくりに努めることを規定



③ 「地域共生社会の実現」の理念を新設 (第4条第1項)

【社会福祉法 第4条第1項】

地域福祉の推進は、地域住民が相互に人格と個性を尊重し合いながら、参加し、共生する地域社会の実現を目指して行われなければならない。



④ 「重層的支援体制整備事業」の創設

行政の支援体制と地域住民等による地域福祉の推進のために必要な環境を一体的かつ重層的に整備するため、「重層的支援体制整備事業」が創設された

【高知県】 平成21年から取り組んできた「**高知型福祉**」の取り組み



【国】 改正社会福祉法に基づく「**地域共生社会**」の取り組み

「高知型地域共生社会」の実現へ

(2) 「高知型地域共生社会」とは

～「たて糸」と「よこ糸」で織りなす地域共生社会～

令和4年10月30日、知事・34市町村長・全社会福祉協議会会長による共同宣言を実施し、「オール高知」の取り組みへ

高知家地域共生社会推進宣言

高知家の一人ひとりが住み慣れた地域で、健やかで心豊かに安心して暮らし続けることができるよう、人と人、人と社会が相互につながり、支え合う『地域共生社会』の実現に向けて、次のとおり宣言します

- 1 **どんな困りごとでも受けとめて寄り添う仕組みづくりに取り組みます**
- 2 **誰もが身近な地域で人や社会とつながることができる場づくりに取り組みます**
- 3 **住民が主体となった支え合いの地域づくりを後押しします**



令和4年10月30日「高知家地域共生社会推進宣言」の様子



「高知家地域共生社会推進宣言」に基づき、 2本柱で施策を推進



【宣言①】どんな困りごとでも受け止めて寄り添う
仕組みづくりに取り組みます

【宣言②】誰もが身近な地域で人や社会とつな
がることのできる場づくりに取り組みます
【宣言③】住民が主体となった支え合いの地域づ
くりを後押しします

柱1 行政主体の「たて糸」

分野を超えた「つながり」を意識した

行政の仕組みづくり

→「たて糸」として、市町村の
多機関協働による包括的な
支援体制の整備を促進



柱2 住民主体の「よこ糸」

「つながり」を実感できる

地域づくり

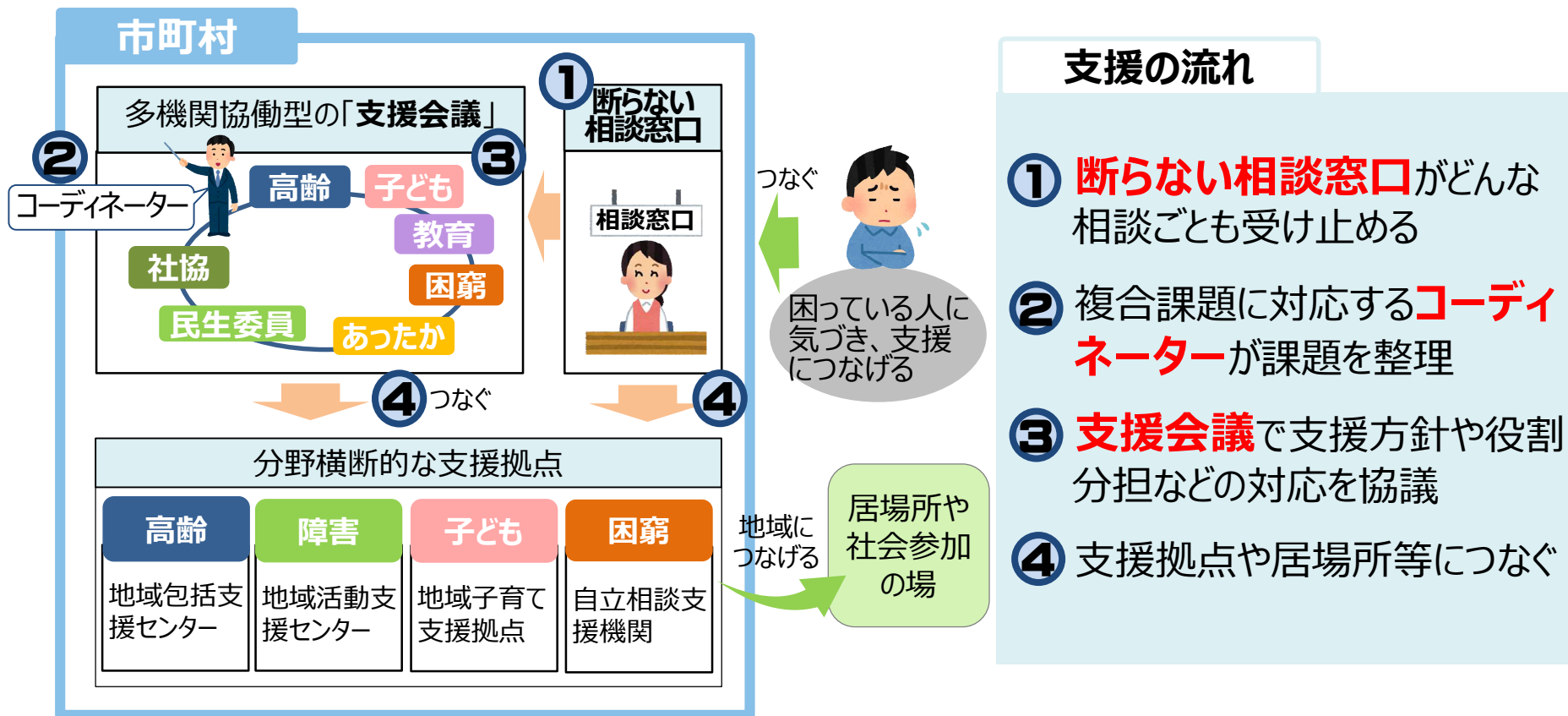
→「よこ糸」として、人と人との
つながりの再生に向けたネット
ワークづくりを展開



縦糸と横糸で織りなす地域共生社会の拠点として
あったかふれあいセンターを活用

柱1 行政主体の「たて糸」

- 1 「住民に身近な圏域」において、地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制の整備
- 2 多機関の協働による包括的な支援体制の整備



柱2 住民主体の「よこ糸」

- 1 「住民に身近な圏域」において、地域住民等が主体的に地域生活課題を把握し、解決を試みることができる環境の整備
- 2 地域の支え合いの力の再構築



- 子どもも若者も高齢者も、誰もが様々な場面で困りごとを抱えるかもしれません。
- みんながつながり、支え合う地域づくりには、困っている人を見逃さないよう、一人ひとりが、身近な人を気にかけて、寄り添い、必要な支援につないでいくことが大切です。

身近な地域

① つながりの再生に向けたネットワークづくり

・ソーシャルワークの網の目構築プロジェクト



② 居場所や社会参加の場の創出



③ 日ごろからの地域のつながり



市町村等支援窓口



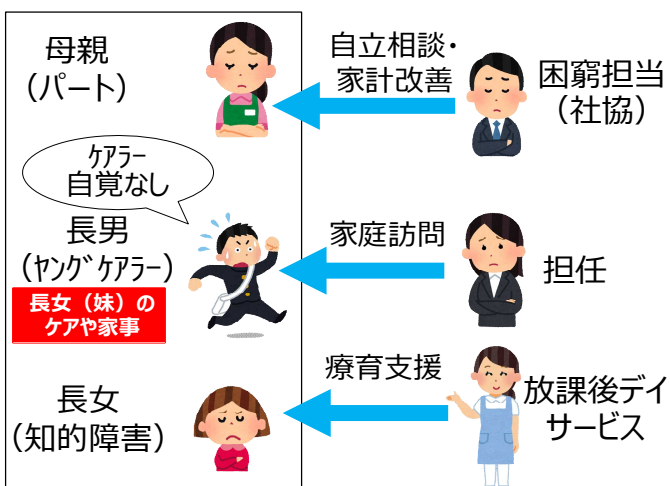
(3) 市町村の多機関協働による包括的な支援体制の整備 ～「たて糸」の具体的な支援事例～

柱1 行政主体の「たて糸」

【事例1】ひとり親・ヤングケアラーへの包括的な相談支援



ひとり親・ヤングケアラー



- 公的な福祉サービスが個別に支援をしていたが、世帯全体の優先順位や役割分担があいまい
- 特に長男はヤングケアラーの自覚がないこともあり、支援が不十分だった

包括的な支援体制

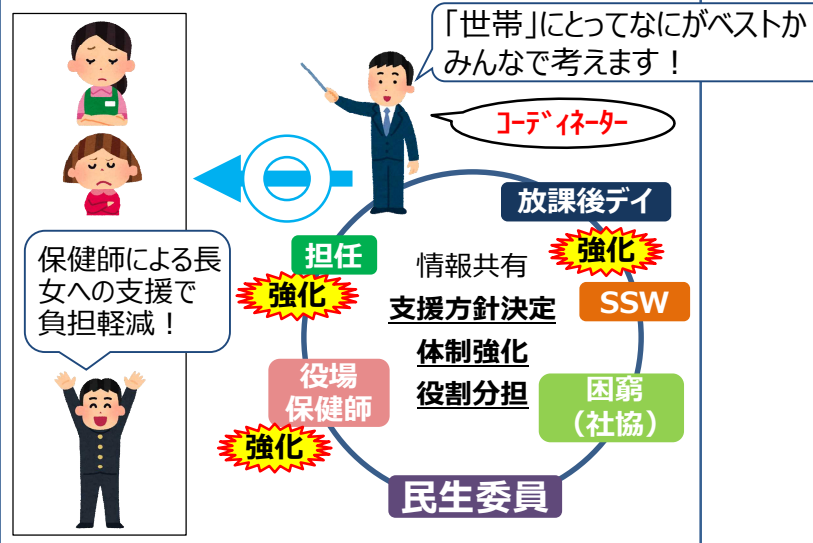
整備前

包括的な支援体制

整備後

「世帯」全体の支援

- 支援会議で情報共有し、**コーディネーターが中心**となって、世帯全体の優先順位付け、役割分担を実施
- 特に長男 (ヤングケアラー) の負担軽減を重視することで長男の負担が軽減



※ヤングケアラー：本来、大人が担うとされている家事や介護などを行っている子ども

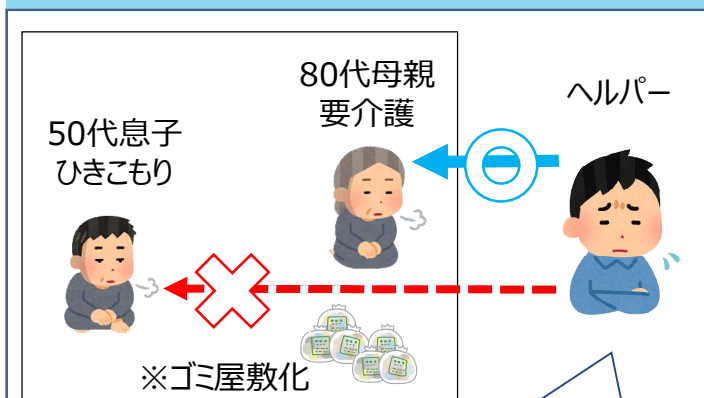
柱1 行政主体の「たて糸」

【事例2】8050問題への包括的な相談支援



包括的な支援体制
整備前

8050問題



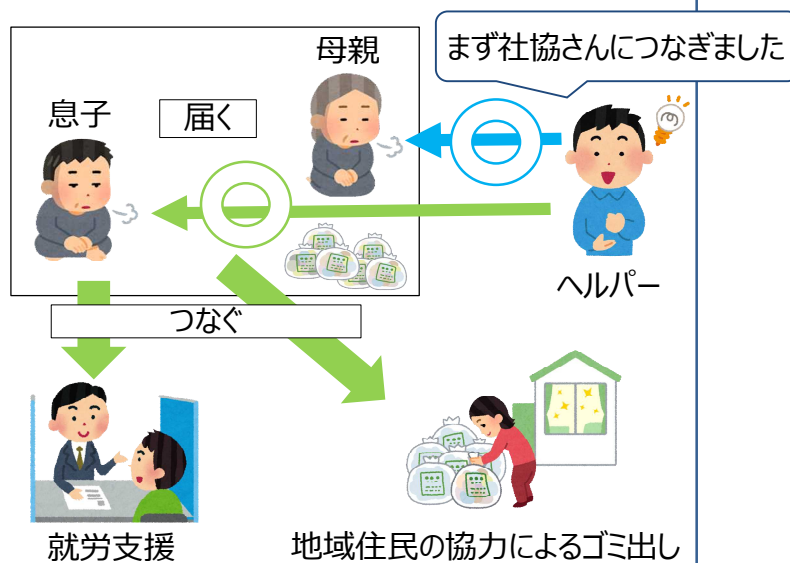
息子さんやゴミ屋敷化のことはわかっているけど、自分の仕事に専念しないと...

- ヘルパーは**母親への支援に専念し**、「ひきこもり」「ゴミ屋敷」などの課題は**把握していたが**、「支援の対象外」として、特に**アクションを起こして**いなかった

包括的な支援体制
整備後

支援がつながる

- 各分野の支援員が、「世帯」に着目し、「**気付いたらつなぐ**」意識をもってサービスを実施
- ヘルパーを通して、ひきこもりとゴミ屋敷の課題解決へ



※8050問題：80代の親が50代のひきこもりの子の生活を支える世帯

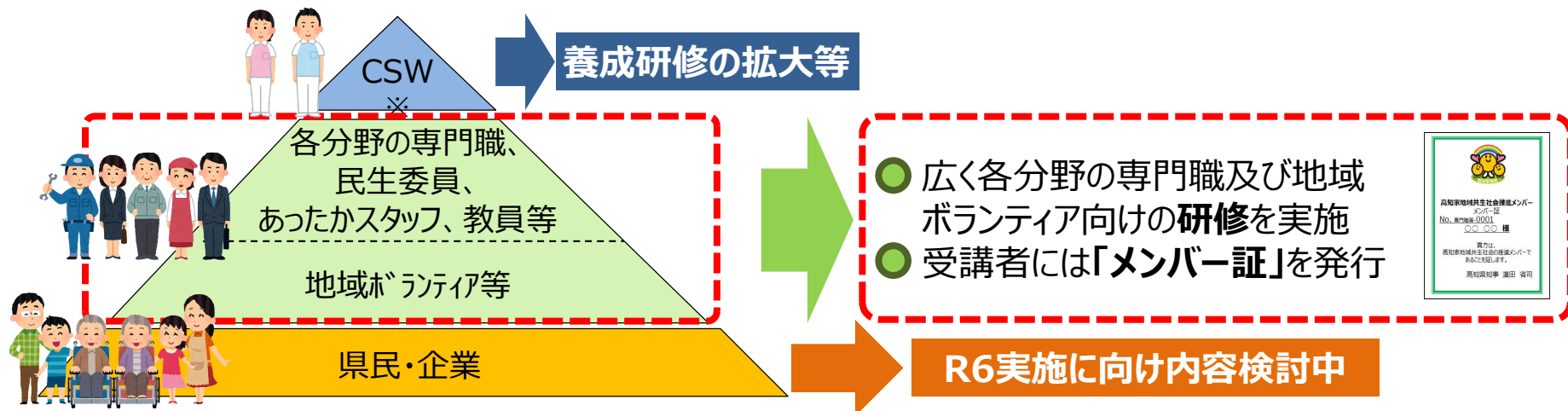
(4) 「つながり」を実感できる地域づくり ～「よこ糸」の具体的な取り組み～

柱2 住民主体の「よこ糸」

ソーシャルワークの網の目構築プロジェクト 「気づいてつなぐ高知家地域共生社会研修」

- 子どもも若者も高齢者も、**誰もが様々な場面で困りごとを抱える**かもしれません。
- みんながつながり、支え合う地域づくりには、困っている人を見逃さないよう、一人ひとりが、身近な人を**気にかけて、寄り添い、必要な支援につないでいく**ことが大切です。

- まずは、**地域で活躍されている各分野の専門職、地域ボランティアの皆さん**に、ソーシャルワークの概要と実践のポイントを学んでいただき、地域や現場で実践につなげていただくことで、**高知家のみんなと一緒に重層的できめ細かな支援の網の目を紡いでいきましょう。**



※CSW（コミュニティソーシャルワーカー）：一人一人の課題に寄り添い、必要な支援機関や地域資源へのつないだり、地域での対応力を強化に向けて、住民の動機付けや組織化などを働きかける専門職

柱2 住民主体の「よこ糸」



地域の見守り活動に関する協定

日ごろから地域住民の方々と接する機会の多い民間の事業者にも、**日々の業務のなかで地域の見守り活動にご協力いただくための「高知県における地域の見守り活動に関する協定」**の取り組みを実施。（令和4年度末時点で24社と協定締結）

協定の内容

※ 3者での協定締結

	主な役割
民間事業者	日常の業務の範囲において、地域住民に関して異変を察知した場合、速やかにその地域の民生委員児童委員協議会に連絡・通報することに協力
民生委員・児童委員	協定締結民間事業者からの連絡を受け、対象世帯等を訪問するなど、安全を確認
高知県	市町村や関係機関に対して協定の趣旨を周知し、取組の円滑な実現を支援



四国アルフレッサ(株)、(株)フォーティ・エス協定締結式
(令和4年7月20日)



(株)高知銀行、あいおいニッセイ同和損害保険(株)高知支店、ヤマト運輸(株)高知主管支店協定締結式 (令和3年11月30日)

柱2 住民主体の「よこ糸」

各分野で進める「よこ糸」の取り組み

○フレイル予防活動などを通じた高齢者支援

地域住民やNPO等によるフレイル予防活動や、ボランティア活動のマッチングポイント制度などの導入による高齢者の生活や見守り支援など

○住民参加型の子育て支援

子育て経験者による敷居の低い相談支援の仕組みづくりや、地域ボランティアによる見守り等の子育て支援、ファミリー・サポート・センターの提供会員の拡大など

○農福連携や子ども食堂の取り組み

障害のある人等と農業者等とのマッチングによる農福連携の推進や、地域ボランティアの参画による子ども食堂の推進

○ボランティア活動の活性化や福祉教育の推進

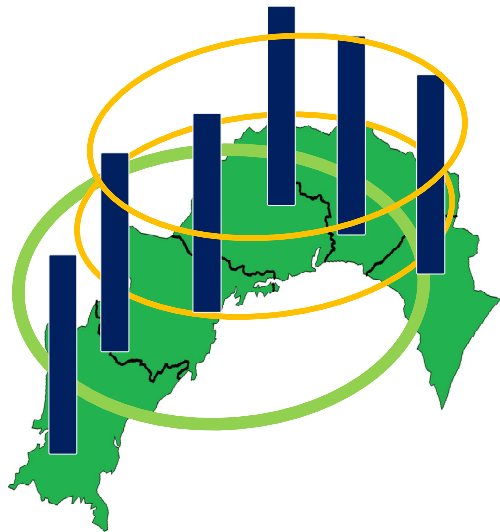
「たて糸」と「よこ糸」が織りなす「高知型地域共生社会」のイメージ

みんながつながり、支え合う地域づくり

困っている人を見逃さないよう、一人ひとりが、身近な人を**気にかけて、寄り添い、必要な支援につないでいく**

柱1 行政主体の「たて糸」

縦割りの制度サービスの隙間を埋めて包括的な支援体制を構築

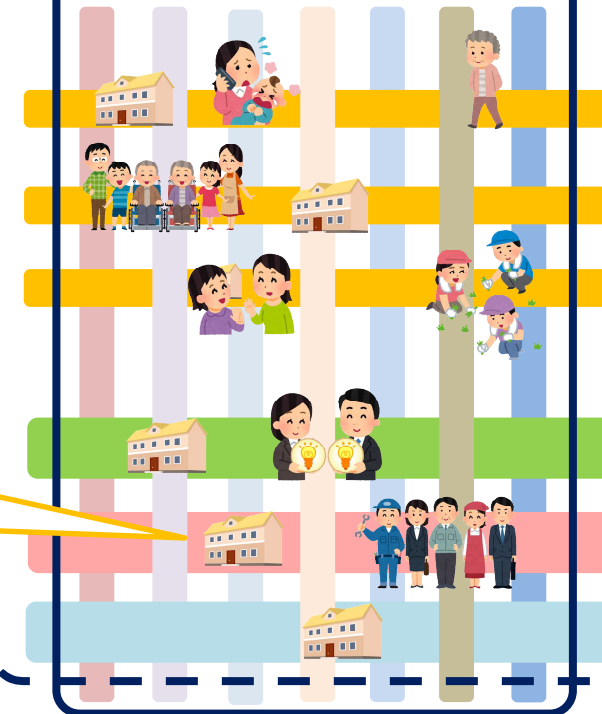


県下全域で展開！

地域共生社会の拠点として、あったかふれあいセンターを活用

※地域の強みや地域資源を活かしながらオーダーメイドで体制を構築

高齢 障害 子ども 困窮 教育 税 住宅



柱2 住民主体の「よこ糸」

つながりの再生に向けたネットワークを構築

市町村圏域で構築

フレイル予防活動等住民参加型の高齢者支援

住民参加型の子育て支援

地域活動等での日ごろからのつながり

県下全域で構築

ソーシャルワークの網の目構築プロジェクト

民生委員、企業等の見守り活動

社会福祉法人の公益的取り組み